

夢や希望につながる税金制度を

琴浦町立赤碕中学校3年 浅田 真唯

毎月の給料日が来るたび、父は給料明細を見つめながらいつもこうつぶやく。「こんなに引かれちゃうんだよな。」

税金は稼いだ給料から持っていかれてしまうもの。これが私の税金のイメージだ。父の給料の手取り額が高ければ、私のお小遣いやお年玉が増えるのに。税金は私のささやかな幸せを邪魔する嫌なものだ。この作文に向き合うまでの私は税金のことをよく知らず、こんな思いを持っていた。

最近の日本では、災害が増加している。災害により被害をうけた人、災害により親を亡くした子供、学校が破壊された地域、そういったものが増えている。そして、今世界で感染が拡大している新型コロナウイルス。この感染対応のために悲鳴をあげる医療関係者たちもどんどん増えている。大切な人を亡くしたり、自分のやりたいことができなくなり、めざしていた道をあきらめざるを得なくなったりした人がたくさんいる。必要なものが不足し、大きな苦勞をしている人がたくさんいる。

この現状を打破するために、自分個人では、直接助けたりはげましたりすることは難しい。だが、税金を使えば、今困っている人たちに少しでも支援することができると思う。税金が困っている人たち、大変な人たちに役に立つ形でもっと多く使われるようになるとよいと思う。個人のできることは限られているが税として多くの人の支援が集まれば、大きな力に変わる。自分の納めた税が、誰かの夢や希望につながる。

私は、この税についての作文を通して税に関してたくさんのことを学び、知った。学んで、知ることで税金のイメージが変わった。自分も納税という形で支援者の一人になれることを知った。夢と希望を叶えるためにも教育は大切。学校が失われたり、学費が払えなくなったりした時でも、教育が受けられ、安心して学べ進学をあきらめることなく、自分の将来を自信を持って切り拓いていける税金制度の充実が必要だ。支援を求める人に素早くかつ十分に対応できる税金制度であってほしい。誰もが安心安全に、幸せな気持ちで生活できる日本であってほしい。こうした成果が日々のニュースで実感を伴うように伝えられるようになると、父のぼやきも無くなるだろう。そして私も安心して自分の未来を描くことができるだろう。税金を集め必要な支援事業を打つのは国や自治体の仕事。加えて、マスコミを通じて税制度の有意義な面を伝えるのも国や自治体の重要な使命であるはずだ。